

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会		
事業所名	グループホーム おおつるの家 グリーンユニット		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	平成30年6月10日	評価結果市町村受理日	平成30年8月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年7月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでは、法人理念『和願愛語』の理念を職員が頭におき、支援を心がけています。いつもと変わらない日常生活をおくれるよう、利用者さんの変化に気づき、早い対応(主治医相談等)を行っています。利用者さんの話を聞くことも、職員の楽しみの一つです。食事は、農産物豊かな大鶴で出来た野菜を食べていただき、献立も、今まで食べてきたものを取り入れながら、職員手作りです。誕生日は、ご本人の希望献立です。利用者さんも職員も笑顔で過ごせることをめざしているグループホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・日々の生活の中に、食事準備・洗濯たみ・食前口腔体操・見守りなど利用者の活躍の場が設けられている。
- ・職員は、日々の生活の中で利用者と一緒に会話する時間を必ず設けている。会話の中で得られた情報や思いは「関わり記録」に残され、職員間で共有されている。
- ・職員負担軽減を図る工夫をしながら、地元食材や差し入れ野菜を用いた手作りの食事が作られている。
- ・避難訓練後、停電・断水など複数の事例毎に具体的な対策を話し合い、実践に繋げている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有のスペースに、法人理念、事業所理念を掲示し、毎月、各職員が『振り返りシート』で自己評価を行っている。	職員が毎月記入する、「理念の振り返りシート」は、個々の達成率やどうしたら達成できるかという具体的な記載項目があり、それらは事業所の和顔愛語の精神の取り組みに活かされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12月には『餅つき大会』を地域のボランティアの方と行ったり、中学校の文化祭の見学、保育園の慰問等を受けている。年一回の地域消防団のとの合同避難訓練の実施。	地域との馴染みの関係が構築されている。5月に開かれた事業所の祭りには、多くの地域の人が集い、ボランティアや地域の複数の商店の参加も得られている。事業所の祭りが、地域の人々の楽しみや地域振興の一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問や、中学生の職場見学等で、受け入れを行い、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議では、各ユニットのチーフも参加を行い、自己報告等のご意見を職員会議で報告し、サービスの向上を行っている。	定期的に行われる会議では、事業所の現状報告を行い、委員から出された意見や提案は、日々の利用者の支援や事業所運営に活かされている。議事録は、玄関に置かれ自由に閲覧できるようになっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の職員に参加をしていただき、自己報告等の連絡も密に取れている。	行政職員とは顔馴染みの関係が出来ている。今春の介護保険の改正では、身体拘束の項目について話し合い、相互理解が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行っており、具体的な例を用いて、説明も行っている。利用者の動きを阻止する行動、声掛けの理解の取組を行っている。	利用者間での共同作業やコミュニケーションが、帰宅願望のある利用者の見守りに繋がっている。職員間の共有認識の下、センサーマットを安易に利用することなく、利用者の安全な見守りが行われている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修、職員会議で虐待防止の勉強会を行っている。当園独自で、「関わりシート」の記入を職員が行い、気づき、防止を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業の利用者がいるが、活用の支援まで、各職員は今は出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、当ユニットのチーフも同席して、説明を行っている。制度の改正は、家族会で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「むすびの会」、運営推進会議でのご意見は、職員に口頭、書面で伝えている。	年2回開かれる家族会では、事業所の取り組みを伝え、家族と利用者・職員とのコミュニケーションを図る工夫が行われている。家族から提案された意見を実践に繋げ、利用者支援・運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、運営会議を毎月行い、意見要望を聞いている。	主任クラスの会議、全体職員会議・ユニット会議が行われている。それぞれの会議毎に、利用者支援・日常業務・事業所運営について話し合いが行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に施設長と面接を行い、要望や提案を聞く場面を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて職員の意識付けをし、研修に参加できるようにシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の合同研修会に参加し、他施設の職員の交流を図っている。今年度は、他のグループホームへの職員が研修に行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人の話をよく聞き、安心していただけるように、信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来たときに、困っている事や要望を聞いている。入所が決定したときは、お手伝いできることと、出来ない事を伝え、ご家族に協力もお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家族の思いを聞きながら、どのようなサービスが必要なのか、再度話をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでは、在宅と同じ様な生活が出来るように、ご本人が出来る事、洗濯物たたみ、洗濯物干し、玄関掃き、草取り等積極的に声掛けをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も、時間を制限する事なく、気軽に訪問してもらえるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高塚参拝など、皆さんが楽しみに出かけられるように、支援を行っている。また、お友達にも訪問してもらえるように家族に伝えている。	電話の取り次ぎやハガキの返信を促すなど、旧知の友人知人との交流が途切れない支援を行っている。毎週訪問を受ける福祉事業所の人達との交流が、新しい馴染みの関係に繋がっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話が出るように話の種を提供したり、今日の出来事で話が出るように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方からの今後の相談を受けたり、病院を訪ねたり、家族の要望にこたえている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、話をよく聞くことに勤め、出来る事の支援を行い。安心できるように支援している。	管理者が、入居開始時に話を聞き、記録に残している。毎日、利用者とゆっくり話をする時間を取り、会話から得られた利用者の思いを記録し、記録は職員で共有され日々の支援に活かされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にわからないことがあるので、日常生活を送りながら、把握につとめ職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりとは違う事を職員が把握し、記録を行い、職員会議、申し送りで現状を伝え、毎日の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や申し送りから、利用者さんの気づきは家族、主治医と連絡を密に取るようにつとめている。	利用者・家族の思いや課題に沿った介護計画を、管理者・各ユニットチーフで作成している。ユニット会議の中で実践状況の評価が話し合われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いろいろな記録を記入し、また共有する事、また職員に聞くことで、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、どうしたら支えていけるのか、出来る事を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、当園のお祭りには積極的に参加し、来園者との交流が出来るように、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医との受診が継続できるように、また急変時は家族との連絡で、職員による受診を行っている。	入居前の掛かりつけ医や希望の掛かりつけ医受診が行われている。利用者の病状や身体状況について、協力医から気軽に相談助言が受けられる関係が出来ており、健康管理・生活支援に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	園内の看護師とは気軽に相談できる関係であり、看護師の助言により、主治医や家族との連絡をとり支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供表を持参し、園での様子を伝え、退院時のカンファレンスには参加を行い、退院後の支援に活用できている。また、退院後も、病院に電話で尋ねることができる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、家族に今後の方針を共有し、事業所で出来る支援の理解をしていただいている。体調変化による支援の方向は、家族との密な相談を行っている。	入居時、重度化終末期支援について、書面を基に事業所方針を伝えている。利用者の加齢・病状変化時には医療と連携を図りながら支援が行われている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な、園内研修等による救急救命の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は、地域の消防団と年に一度合同で行い、利用者さんにも理解を求めうまく出来た。H29年度の災害を踏まえ、今後の支援について家族と会議を行った。	昨年の豪雨災害時には、職員の臨機応変の対応により利用者が混乱や不安を抱くことなく過すことができた。また福祉避難所として地域住民の受け入れを行った。防災訓練は、消防団協力の下、全利用者参加で実践訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との関わり記録(一日10分)を記入する事により、話を聞くことを心がけている。方言になることもあるが、笑って話ができるように支援している。	利用者主体の行動・尊厳ある生活を守ることが事業所の身体拘束指針の中に謳っている。利用者の生活背景に配慮して、家族会を「むすびの会」と表現している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定ができるように声掛け、支援をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム協議会での『認知症』の研修を受け、改めて、職員の都合でなく一人ひとりのペースを大切にする事を学び、支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には、入浴後の服を職員と一緒に選んだり、日常(爪きり、髭剃り、整髪、散髪)の身だしなみに注意を行い、支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消(地域の野菜特売所)を行い、季節のものを食べていただいている。また、誕生日はその方の希望のメニューを提供している。	各ユニット厨房で手作りの食事が作られている。咀嚼嚥下機能の低下した利用者には、専門職の助言を受けている。本人の嗜好を大切に楽しみとなるメニューで食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分は個別に記録に残している。月一回の体重測定で体調の管理をおこなっている。(体重増加する人の支援を検討中)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっており、出来ない方には、職員がおこなっている。2週間に1回の歯科訪問もあり、ブラッシングの指導も受けて支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを理解し、声掛けをおこなっている。トイレの感覚はなくならないように、声掛け、支援をおこなっている。	職員は、利用者の排泄パターンや身体機能を共有し支援を行っている。紙パンツ利用から、布パンツに改善した事例があり、改善後もパッドの利用や援助の工夫をするなどで排泄の自立支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは積極的に取り入れ、水分の確認、排便チェックを行い、便秘の方は主治医と相談を行い、便秘薬を使うなど管理をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を、利用者さんの体調を見ながら、『声掛けを行い、希望の時間におこなっている。また、希望される方には、入浴日でなくても入浴もおこなう。	週3回午前11時からの入浴を基本としているが、利用者の個性や希望を大切に、早朝入浴や同性希望に対応するなど、気持ちよく入浴を楽しめる支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、いつでも横になれるように整えている。また、リビングでも自由に横になれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更になったときは情報を共有し、服薬忘れが無い様にお薬セットする人、飲ませる人で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	裁縫の得意な方、畑が好きな方などがそれぞれ楽しめるように支援を行っている。体内時計を整えるように日向ぼっこを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に出かけられるように、家族への声掛け理解をしてもらっている。ユニットで、急に出かけておやつを外で食べる事も支援している。	気候の良い時期には、山・川・田畑に囲まれた事業所周辺を散歩し、作物の成長や四季を楽しんでいる。複数の利用者で、ドライブや祭り見物にも出かけている。外出は気分転換になり、日頃みられない表情や感情の表出機会に繋がっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、外出した時に本人の希望で購入する事もある。また、家族の了解の下自分で管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望のある人は、すぐ対応している。(認知進行に伴い電話の希望のある人には家族と蜜に相談しながら行っている。)はがきが届いたら、返信を本人と一緒にやっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように、季節のお花を飾ったり、行事も大切に行っている。室温、湿度を見ながら、管理を行っている。	共有空間では、利用者が思い思いに過ごしたり、気の合う利用者同士で和やかに過ごしている。職員が、利用者とお話しながら思いを聞き取り、穏やかな時間を共有する場にもなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、おおまか自分の座る位置が本人たちで決まっておき、話をする事が出来るように、職員がいつも見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人、家族と相談して、自宅から持ってきてもらっている。(テレビ、仏壇など)入所してからのも、本人の希望を家族に伝え対応している。	毎日環境整備が行われ、居室や私物の清潔が図られている。エアコンを好まない利用者には、エアコンのランプを目隠ししたり、ベッド位置を変えるなど工夫をして、快適な室温を保つなど熱中症予防の支援が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように、名前や飾り付けをおこなっている。トイレ、浴室等共有スペースは、安全安心して動けるように支援を行っている。		

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4470400732		
法人名	社会福祉法人 紫雲福祉会		
事業所名	グループホーム おおつるの家 オレンジユニット		
所在地	大分県日田市大鶴町2267-1		
自己評価作成日	平成30年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成30年7月13日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームでは、法人理念『和願愛語』の理念を職員が頭におき、支援を心がけています。いつもと変わらない日常生活をおくれるよう、利用者さんの変化に気づき、早い対応(主治医相談等)を行っています。利用者さんの話を聞くことも、職員の楽しみの一つです。食事は、農産物豊かな大鶴で出来た野菜を食べていただき、献立も、今まで食べてきたものを取り入れながら、職員手作りです。誕生日は、ご本人の希望献立です。利用者さんも職員も笑顔で過ごせることをめざしているグループホームです。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

**【グループホーム おおつるの家 グリーンユニットに記載】**

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有のスペースに、法人理念、事業所理念を掲示し、毎月、各職員が『振り返りシート』で自己評価を行っている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	12月には『餅つき大会』を地域のボランティアの方と行ったり、中学校の文化祭の見学、保育園の慰問等を受けている。年一回の地域消防団のとの合同避難訓練の実施。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方の訪問や、中学生の職場見学等で、受け入れを行い、認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年6回の運営推進会議では、各ユニットのチーフも参加を行い、自己報告等でのご意見を職員会議で報告し、サービスの向上を行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議では、市の職員に参加をしていただき、自己報告等の連絡も密に取れている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する勉強会を行っており、具体的な例を用いて、説明も行っている。利用者の動きを阻止する行動、声掛けの理解の取組を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	園内研修、職員会議で虐待防止の勉強会を行っている。当園独自で、「関わりシート」の記入を職員が行い、気づき、防止を行っている。		

事業者名:グループホーム おおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を活用している利用者さんがおらず活用の支援まで、各職員は今では出来ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、当ユニットのチーフも同席して、説明を行っている。制度の改正は、家族会で説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	「むすびの会」、運営推進会議でのご意見は、職員に口頭、書面で伝えている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議、運営会議を毎月行い、意見要望を聞いている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年度末に施設長と面接を行い、要望や提案を聞く場面を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得に向けて職員の意識付けをし、研修に参加できるようにシフトの調整を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の合同研修会に参加し、他施設の職員の交流を図っている。今年、他のグループホームへの職員が研修に行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まず、本人の話をよく聞き、安心していただけるように、信頼関係を構築できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来たときに、困っている事や要望を聞いている。入所が決定したときは、お手伝いできることと、出来ない事を伝え、ご家族に協力もお願いしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態、家族の思いを聞きながら、どのようなサービスが必要なのか、再度話をおこなっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームでは、在宅と同じ様な生活が出来るように、ご本人が出来る事、洗濯物たたみ、洗濯物干し、玄関掃き、草取り等積極的に声掛けをおこなっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会も、時間を制限する事なく、気軽に訪問してもらえるようお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	高塚参拝など、皆さんが楽しみに出かけるように、支援を行っている。また、お友達にも訪問してもらえるように家族に伝えている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が話が出来るように話の種を提供したり、今日の出来事で話が出来るように支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方からの今後の相談を受けたり、病院を訪ねたり、家族の要望にこたえている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の希望に添えるように、話をよく聞くことに勤め、出来る事の支援を行い。安心できるように支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にわからないことがあるので、日常生活を送りながら、把握につとめ職員に共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりとは違う事を職員が把握し、記録を行い、職員会議、申し送りで現状を伝え、毎日の支援を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の記録や申し送りから、利用者さんの気づきは家族、主治医と連絡を密に取るようにつとめている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いろいろな記録を記入し、また共有する事、また職員に聞くことで、介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスにとらわれず、どうしたら支えていけるのか、出来る事を支援している。		

事業者名:グループホーム おおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事や、当園のお祭りには積極的に参加し、来園者との交流が出来るように、支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々のかかりつけ医との受診が継続できるように、また急変時は家族との連絡で、職員による受診を行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	園内の看護師とは気軽に相談できる関係であり、看護師の助言により、主治医や家族との連絡をとり支援を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、情報提供表を持参し、園での様子を伝え、退院時のカンファレンスには参加を行い、退院後の支援に活用できている。また、退院後も、病院に電話で尋ねることができる関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、家族に今後の方針を共有し、事業所で出来る支援の理解をしていただいている。体調変化による支援の方向は、家族との密な相談を行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な、園内研修等による救急救命の訓練をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災による避難訓練は、地域の消防団と年に一度合同で行い、利用者さんにも理解を求めうまく出来た。H29年度の災害を踏まえ、今後の支援について家族と会議を行った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者との関わり記録(一日10分)を記入する事により、話を聞くことを心がけている。方言になることもあるが、笑って話ができるように支援している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己決定ができるように声掛け、支援をおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	グループホーム協議会での『認知症』の研修を受け、改めて、職員の都合でなく一人ひとりのペースを大切にする事を学び、支援をおこなっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来る方には、入浴後の服を職員と一緒に選んだり、日常(爪きり、髭剃り、整髪、散髪)の身だしなみに注意を行い、支援をおこなっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地産地消(地域の野菜特売所)を行い、季節のものを食べていただいている。また、誕生日はその方の希望のメニューを提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事量、水分は個別に記録に残している。月一回の体重測定で体調の管理をおこなっている。(体重増加する人の支援を検討中)		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアをおこなっており、出来ない方には、職員がおこなっている。2週間に1回の歯科訪問もあり、ブラッシングの指導も受けて支援している。		



事業者名:グループホーム おおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿パターンを理解し、声掛けをおこなっている。トイレの感覚はなくならないように、声掛け、支援をおこなっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルトは積極的に取り入れ、水分の確認、排便チェックを行い、便秘の方は主治医と相談を行い、便秘薬を使うなど管理をおこなっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週3回の入浴を、利用者さんの体調を見ながら、声掛けを行い、希望の時間におこなっている。また、希望される方には、入浴日でなくても入浴もおこなう。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室は、いつでも横になれるように整えている。また、リビングでも自由に横になれるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更になったときは情報を共有し、服薬忘れが無い様にお薬セットする人、飲ませる人で確認を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑が好きな方などがそれぞれ楽しめるように支援を行っている。体内時計を整えるように日向ぼっこを取り入れている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族と一緒に出かけられるように、家族への声掛け理解をしてもらっている。ユニットで、急に出かけておやつを外で食べる事も支援している。		

事業者名:グループホーム おおつるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かり金があり、外出した時に本人の希望で購入する事もある。また、家族の了解の下自分で管理している人もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望のある人は、すぐ対応している。(認知進行に伴い電話の希望のある人には家族と蜜に相談しながら行っている。)はがきが届いたら、返信を本人と一緒にしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じていただけるように、季節のお花を飾ったり、行事も大切に行っている。室温、湿度を見ながら、管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは、おおまか自分の座る位置が本人たちで決まっておき、話をする事が出来るように、職員がいつも見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人、家族と相談して、自宅から持ってきてもらっている。(テレビ、仏壇など)入所してからの、本人の希望を家族に伝え対応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分かるように、名前や飾り付けをおこなっている。トイレ、浴室等共有スペースは、安全安心して動けるように支援を行っている。		